

線香花火と日本人



私も幼い頃、母と縁側で楽しんだ、線香花火の淡い光が忘れられません。

■輝き取り戻す国産線香花火 作り手に聞く奥深さ。

国産の線香花火が見直されている。主流の中国産に比べ火花が大きく、長持ちするのが魅力。中国産の価格が1本あたり2~3円なのに対し、国産は60円以上と高価だが売れ行きは好調だ。生産しているのは国内に数社のみ。流通業者やメーカーを訪ね、線香花火に込めた思いを聞いた。

■3年かけて復活。

日本で線香花火を作り始めたのは江戸時代とされる。職人らが手作りで生産してきたが、安い中国産に押され国産品は次第に姿を消していった。1998年に福岡の製造業者が撤退し、日本国内で製造するのは一時、1社だけになった。「伝統を消してはならない」と老舗花火問屋の山縣商店(東京・台東)の山縣常浩会長らが産地に再び生産を呼びかける。これに応じた数社が生産を始めた。山縣会長は「日本の線香花火は300年の伝統があるが、今ではほとんど中国産になってしまった。日本から消えては大変で、3年間かけて復活させた」と話す。

シナゼン特選の2セット 【協賛】(株)明鼓煙火店 様



煌(きらめき) ¥2,000(税込)



雅(みやび) ¥3,500(税込)

お問い合わせ

(株)シナゼン

025-286-1760